

第3回 恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会
教育活動・学校事務部会 (会議録)

会議の名称	第3回恵那市恵那南地区統合中学校準備委員会教育活動・学校事務部会
開催日時	令和5年9月12日 午後7時から
開催場所	山岡中学校 遠隔交流教室
報告・協議	・課題21「学校図書館に関すること」について ～グループ討議 ・各課題の進捗・取組について ・次回の教育活動・学校事務部会について
公開非公開の別	公開
出席者	委員 平林 道博 石垣 寿子 大嶋 達也 夏目 裕行 横光 哲 荻山 勝 片桐 宣伸 篠原 徹 市岡 早苗 後藤 加代子 加藤 淳 吉田 真弓 中垣 野歩 梶屋 明広 松井 克仁 三浦 祐揮 松村 亜希子 榎本 草平 田中 貢治 藤野 貴子 鱈部 靖子 教育委員会 青木 茂 各務 恵美

市川 太一
小木曾健太
岩島 慶尚
小島光太郎
会議の内容 会議録のとおり
傍聴者の数 5名

1 部会長あいさつ

部会長：本日はお疲れさまです。学校図書館について、広く意見を頂戴し、よりよい学校図書館作りに役立てていきたいという趣旨で行います。

2 事務局より説明

- ・当初の予定の日程が延期した経緯
- ・準備委員会理事会「コンセプト案」の協議とその後の予定
- ・これからの「部会として進めていく」趣旨

3 報告・協議

(1) 課題No.2 1 「学校図書に関すること」について ～グループ討議～

事務局：補足説明：プレゼンテーションによる説明

図書館の機能・役割、図書館のイメージについての検討

委員：グループ討議後に発表したことがどのように生かされるのですか。

事務局：設計に反映させます。

委員：設計への要望はまだ間に合いますか。

事務局：間に合います。

事務局：A～D グループに分かれて討議 討議の注意点について説明

司会進行役の決定～7時30分 討議～8時10分 発表 8時10分～

部会長：一グループ3分程で発表、いただいた考えは事務局が回収し、精査して設計に反映させるそうです。

A グループ

発表者：メンバーから沢山のアイデアがでたので発表します。

図書館の本質に合うようにしたい。

イメージとしては、落ち着いた広々とした空間、ゆとりがあって、一人一人個人と本が多様に関われる。関わり方がいろいろできるとよい。

木の机、観葉植物等が置いてあったり、子どもたちが学ぶ意欲をもてたりする空間にしたい。大きく図書館の機能として、読書センターのための図書館と学習センターとしての図書館両方を追求する。

読書センターの図書館については、中央図書館のようにコンピューター管理が成され、借りたい本の場所がすぐに分かる、読書履歴が分かる、個人が借りた本の傾向が分かる等センターとしての機能をもたせる。

学習センターとしての機能は、一人一人がタブレットを持っているので、それを活用する。電子黒板やデジタル機器を活用したプレゼン発表の場として使われるようにしたい。

2つ目は、学習センターの図書館を強化してほしいのは、生徒一人一人の多様な学びがあるので、紙媒体で読む子、デジタルで読む子等の個人の学び方に対応する。

立って読むコーナーを設けてほしいという意見も出た。

バスの待ち時間に一人で勉強ができるように、1階に待合室を兼ねて、放課後自由に過ごすことができるシステムを望む。

エアコンを絶対に付けてほしい。

部会長：ご意見ご質問は全ての発表が終わってからお願いします。

B グループ

発表者：誰もが自由にリラックスして使えるスペースにしたい、バス待ちで利用できるようにしたり、読書・学習センターとしての図書館としたい。

是非、恵那市中央図書館の機能をもたせ、地域の方が利用する、小さな子が保護者と一緒に本を借りられるように、いつか小さな子がこの学校に通うのだと思いをもてるように、中学生が地域の人と関われる等、コミュニティーの中心的な役割をもたせる。

図書館司書を常駐させ、貸出時間を柔軟に、ポップを活用して本の紹介、楽しみながら本を選べるように図書館司書の力を借りたい。

個別で学べる場所があったり、映像スペースがあったり、デジタル図書の閲覧ができたりする場所に。例えば学習スペースには、高校生や地域の方の力を借りて学習サポーター（ボランティア）を配置し、支援ができるような場所にする。

イメージはスタバのようなモダンで近代的な感じ。スタバの雰囲気は、黙々と仕事ができる感じなので、自分に没頭できるような空間にしたい。

恵那市は木がふんだんにあり、それを利用している学校や施設は他にあるので、あえて、超近代的な造りにしたらどうかと考えた。

エアコン、床暖房等快適に利用できる環境にしてほしい。そんなことを考えると、ランチルームと図書館をダブルで利用する。学習と読書を分けるとか、地域と学校を分けるとか考えて、両方を図書館にして活用する。

C グループ

発表者：生徒が利用したくなる機能を工夫する。

学習センターとしては、授業でも活用（調べ学習、少人数等）できるような学習スペースを設置する。

情報センターとしては、ICT、ヘッドフォンを活用して学習する、Wi-Fi環境を整える、タブレットを活用した学習や情報収集ができる空間にする。

本を充実させるとともに、図書館司書を常駐させ、本の紹介やどの本を読むとよいなど意図的なアドバイスをしてほしい。堅い本だけではなくて、絵本、漫画なども置いてほしい。

リラックスできるスペース、ランチルームを活用できるなら、外からでも入れるように、寝転べるスペース、集中できるスペースの機能が必要である。

教室に入れない子も興味をもったことを勉強できる環境。

イメージは、誰でも親しみやすい、明るい、開放的、安らげる、くつろげる、ほっとできる空間。

そのためには、カーペットを敷いた空間などがあるとよい。

自分の将来をイメージできる、恵南地区を思い浮かべられる、恵南の木材を使用。ふるさとの情報と出会える、在校中も卒業後も自慢できる図書館にしたい。

D グループ

発表者：生徒が行きたくなる図書館、本を楽しめるスペースと、みんなで交流するスペースが分かれていることが大切である、放課後や夏休み等に学習したり、調べ事をして利用できるようにしたい。

5つの地域の歴史、今までに地域が発行してきた書籍があると、地域と一緒に歩んでいくべきこと等が分かる。

一人1台タブレットに対応する電源が必要。ICTを活用して調べ学習ができる。

地域への開放、5つの地域が一つに集まるので、同年齢だけではなく、異年齢の子とも交流ができる場所は必要になる。学ぶ、発表する等ができる多機能な場所。

図書館司書を配置、地域の人も活用できる場所、購買スペースもあるとよい。

本となじみのない生徒たち図書館に足を運べるような場所。

イメージ

恵南の木を利用し、温もりのあるスペース、開放的な空間にしたい。

本と向き合う、勉強と向き合う、友達と交流できるスペース、授業でも使えるが分かれているとよい。

部会長：ご意見・ご質問はありますか。

部会長：意見を伺っていて、開放的というところにキーワードがあると感じた。現在の学校

とはまるで対極ですね。

コメダとかスタバのようにとは、自由に出入りできるという空間のイメージですね。

それを学校に造るという発想は自分には無かった。非常に衝撃的な意見でした。恵南の木材（素材）を使う。各地の歴史、伝統文化に触れられる。本と向き合うこと、色々な情報に触れられること、リラックスして自学ができるスペース。バスの待ち時間に使えるということは、鍵をかけていては使えないので、開放的でいつでも自由で出入りできる、ふらっと立ち寄れる図書館を作ってほしいというご意見が多かったように思います。

新しい学校の図書館は、夢とか、可能性とか、興味を伸ばせる図書館にしていただけたらと思います。

エアコンと床暖房はできたら、ものすごく冬は冷えますので・・・できたら有難いです。

今後、皆様方のご意見をできるだけ設計に反映させて、設計図ができあがったら見せていただけるということです。皆様方、ありがとうございました。

委員： 豊かな意見が出て、深まったと思います。2ページに現状の課題ということがあります。現実に戻って、今の話を進めていこうと考えた時に、生徒数の増加に伴って冊数が7,300から11,700冊の蔵書を収納できると言われたが、別に、11,700冊に揃える必要はない。

恵南の中では24,320冊の蔵書をもっている。本のダブリとかで捨てていく本もある中で、最低限11,700冊必要というだけなので5校が集まれば多くなる。できる限り捨てないで収容するという方向で進めるといいのではないか。そうすると読書スペースは、今の図書館では読書するのも狭いですか。

事務局： はい、狭いです。

委員： 2階を読書スペースにして、1階を読書センターにする案でも、問題があるということですか。

部会長： そうですね。対応しきれないこともあるかもしれません。

委員： どうしたらいいですか。

委員： 今日初めて参加させてもらったので、経過を知らずに発言するかもしれません。新設して造るということは考えてないのか。

できれば、全く新しく素敵な場所を造っていただければシンボルにもなるのでありがたい。

部会長： 26年末の案では、山岡駅周辺の土地に新設するという案であったと記憶している。その案は明知鉄道を活用するという大前提があつての事でした。しかし、昨年度か

一昨年ですか、こども園の保護者にアンケートを取った所、明知鉄道よりはスクールバスで送ってもらえる方がいいという案が上がってきました。スクールバスで登校するとなると、山岡駅周辺である必要はなく、この山岡中学校にスクールバスが乗り入れできれば、同じ効果が得られるということになった。

このことから、昨年度の準備委員会で山岡中学校を増築してはどうかということに至った。

瑞浪北中学校のように素晴らしい校舎を新設できれば、どの地域の子どもたちも非常に楽しみにできるがその辺の事情は…。

委員： なんとなくここを活用するという事だったので、山を削ってそこに図書館を造り、新設してもらえたらという意見ですが、それを意見として持っていったらいいのか、それは難しいということなのかどうかと思ったもので。特に回答を求めているんです。

事務局： 教育部会の意見としていただければと思います。発表ではランチルームの活用意見が多かったように思いますが…。

参考程度に今の図書館の面積とランチルームの面積を紹介します。図書館はおよそ 220 平米、ランチルームが 300 平米あります。参考に見せた牛久中学校の図書室の面積が 330 平米です。

委員： 牛久中学校は図書館 1 室ですか。

事務局： そこまで調べていないのでわかりませんが、蔵書が 12, 000 冊なので 1 室だと思われそうです。大きさの参考としてイメージがもてるかと考え紹介しました。

部会長： 新設という意見を事務局にもって帰ってもらいます。

(2) 各課題の進捗・取組について

事務局： 4 ページから各学校の伝統的な行事や総合的な学習の時間の内容をまとめました。各学校が伝統ある取り組みや地域を生かした取り組みを行っています。調べていただきましたので、今後皆さんのご意見を聞きながら検討等していきます。

9 ページには、生徒会・交流事業に関する内容をまとめました。

中学校統合の前に小学校の交流が必要になってくる。その辺、ご意見をお聞きしながら計画を作っていけるとよいと考えています。

次回は、図書館の設計についてお見せできればお見せして、地域の特色ある活動についてご意見をいただきたいと思います。

4 次回の教育部会について

事務局：10月11日（水）19：00～

部会長：場所ですが、5地域を回るということで、上矢作、串原、明智のいずれかの地区で開催します。会場を確定し、案内を出させていただきます。

5 その他（次回の議案）

- ・地域の特色ある活動、交流活動について
- ・図書館の設計図について（設計図が間に合えば）